

北海道・福島町

## 福島町青函トンネル記念館

—開業20周年、海峡を結ぶトンネル—

橋本紳一郎 編集委員

本州と北海道をつないだ海底トンネル工事として世界の土木史上に残る高い評価を受けた「青函トンネル」は、昨年（2008年3月13日）に開業20周年を迎えた。青森県側と北海道側には、それぞれ建設工事の全容を伝える記念館がある。北海道の道南地区で、函館市内から松前に向かう道中に「福島町青函トンネル記念館」はある。記念館のある福島町は、青函トンネル工事の北海道側工事基地を担った場所であり、千代の山や千代の富士の2人の名横綱を生んだまちとしても有名な。

函館市内から記念館前のバス停で降りて、ま  
ず目にするのが海底調査に使用された大きな  
白い潜水艇「くろしおII号」である。そして記  
念館に入る前に驚かされるのは、そのひととき  
目立つ記念館の外観。2005（平成17）年4  
月に開館した記念館の建物は、青函トンネルを  
イメージした長さ50mにも及ぶ二つの丸い外観  
が特徴的だ。

記念館に入ると、最初にトンネル工事の先端  
で活躍した四つの歯を持つ大きなトンネルボー  
リングマシンが迎ええてくれる。その先に進む  
と、四つの展示ゾーンに分かれており、海峡の歴  
史や青函連絡船の歴史、青函トンネルの計画経  
緯から着工・完成までを見ることができると  
か、工事に参加した地元トンネルマンたちの人  
間ドラマも紹介されている。技術を紹介したコー  
ナーでは、当時、実際に使用された掘削機やコン  
クリート吹付け機のほか、トンネル内で使用さ  
れているケーブルも展示されている。この記念館

の特徴は、実際に使用された多くの機材を間近  
で目にするところであり、記念館  
の外にも、排水ポンプやアジテーターカーなどが仮  
設レールに展示されている。また、実際の青函ト  
ンネル内を映像で楽しめるコーナーや世界につ  
ながるトンネルワープゾーンなど、親子でも楽し  
めるようになっていく。

展示ゾーンを抜けると最後にシアター室が  
あり、青函トンネル工事の計画から完成、そし  
て津軽海峡線の開通までを約10分間の映像  
で楽しめる。

記念館は毎年12月1日から3月31日までの  
冬期間中は休館となるが、暖かくなる4月  
に記念館を訪れて、ぜひ一度、トンネル工事やト  
ンネルマンの熱い思いに触れてもらいたい。

### Access アクセス

所在地 〒049-1331  
北海道松前郡福島町字三岳32の1

電話 0139-47-3020

#### 交通・アクセス

- 鉄道（JR北海道）とバス（函館バス）  
函館—木古内（特急・40分）  
木古内—青函トンネル記念館前  
（50分）
- バス（函館バス）  
函館—木古内—青函トンネル記念館前  
（2時間30分）
- 車  
函館—青函トンネル記念館（国道  
228号・2時間）

開館 9時～17時  
4月～11月（休館：12月1日～3月31日）

入館料 小・中・高校生：200円、一般（小・中・高校生を除く15歳以上）：400円

URL <http://www.town.fukushima.hokkaido.jp/tonneru/default.htm>





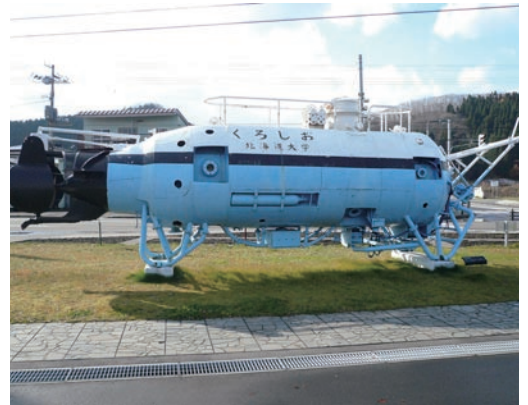
トンネルをイメージした記念館の外観



実際に使用されたコンクリート吹付け機



館内展示ゾーン全体



潜水艇「くろしおII号」



記念館入り口のトンネルボーリングマシン



実際に使用された機材他